

図書館だより

2010 年 9 月 2 日
第 85 号
成田高等学校
図書委員会
成田市成田 27 番地

仮図書館で企画展・IV を開催

九月四日から十一日まで

(展示資料提供

自衛隊千葉地方協力本部
・陸上自衛隊第一空挺団)

「現代の防人」展

学校図書館長 高橋春樹

自衛隊は、わが国の防衛を任務とし、侵略事態に備えている。また、不審船・武装工作員などによる活動、核・生物・化学兵器によるテロなど、わが国の平和と安全に重大な影響を与える事態や、大規模な災害に対し、迅速かつ的確に対処すべく即応体制を整えている。そして、国際社会が協力して行う活動にも積極的に取り組んでいる。

今回の企画展では、自衛隊が行う国際平和活動や災害救助活動にスポットをあて、自衛隊千葉地方協力本部の協力を得て、写真パネルを展示し、併せてレーション(戦闘糧食/災害時に自衛隊により配給される)を展示。そして、天幕(テント)や隊員が携行する装備の一部を展示し、その重量を体感してもらおうとの試みである。事前に図書委員とともに二度にわたる取材を行った。たった数度の見学で自衛隊の何が理解できるだろうか?と不安がよぎったが、「アクティブに、そしてクリエイティブに!」が信条の学校図書館では、取材班を編成して果敢に自衛隊に取り組んだ。

「取材記 その1 護衛艦にて体験航海」

「取材記 その1 護衛艦にて体験航海」



船橋南埠頭に停泊中の「いかづち」

去る五月二十九日(土)京葉コンピナート南埠頭(船橋市)で開催された自衛隊広報イベント「船橋マリンフェスタ2010」に参加、取材を行った。防大や航空学生など、進路を自衛隊一本に絞っている図書委員と同行した。午前十一時からの自衛官採用説明会に参加すると、防衛大学校をはじめいくつもの受験コースがあること、そして隊員には様々な職種があることを知った。どのコースからの入隊にしても、国防の職責を担うことには変わりはない。説明会が終わると既に昼近くになっていた。我々は潜

水艦を見学し、その艦内で昼食をいただくことになっていた。潜水艦乗艦の際は、カメラや携帯電話の持ち込みは出来ない。精密機器のかたまりであり、また、機密保持のため、艦内は全面撮影禁止である。



船橋南埠頭に停泊中の「おやしお」セイル部

一九九八年から就役しているこの潜水艦「おやしお」は、海上自衛隊第二潜水隊群（横須賀基地）所属。川崎造船で建造された国産。建造費は約五〇〇億円だという。基準排水量二七五〇t、全長八二m、全幅

八・九m、喫水七・四m。水上ではディーゼル推進だが、潜航中はモーター推進である。静粛性と低振動のV型エンジンで7枚翼スクリュー、巡航時は一二〇〇回転/分で運転と、世界トップクラスの水準である。

艦首部（前）から乗艦、ハッチをいくつかくぐって艦内に、このハッチがなぜか垂直ではなく傾斜角上に取り付けられている。（艦尾部のハッチは上から下まで垂直）艦内に到着して直ぐに理由を知ることになる。着いた場所は、魚雷やミサイルの発射管室で、八九式魚雷・対艦ミサイルが二段に格納されていた。前部ハッチの位置が斜めになっているのは、これらの武器を積み込む際の搬入口となるためであった。そう、斜めに立てて滑らすように積み込むという。足下の黒い鉄部がジャッキで、魚雷を定位置まで油圧で持ち上げ装着する。

浸水に備えて艦の各部はハッチで細かく仕切られている。各所にハロン消化設備（ハロンガスを充満させ無酸素状態にして火災を消す仕組み）が設置されている。操舵室では潜望鏡を覗くことが出来た。この狭い艦内に乗員が七五名もいるという。不思議に思っ質問すると、乗員は三交代制なのだという。こんな狭い艦内の何処に休憩施設があるのかとの問いに、若い士官は「先程のベッド（そついえば魚雷のすぐ脇に確

かにベッドが四つあった。機能重視の極みだ）や三段ベッドで睡眠・休憩をとります。航行中の艦内では食事が一日四回と決まっています。艦内で楽しみといったら食べることなのです」なるほど艦内食堂で見かけた下士官の胸回りにだいぶ脂がのっている訳だ。ちなみに、この日のメニューは海自伝統のカレーライスであった。



「おやしお」海上自衛隊HPより

次は護衛艦「いかづち」で体験航海だ。二〇〇一年から就役の「いかづち」は海上自衛隊第一護衛隊群第五護衛隊（横須賀基地）所属。日立造船で建造の国産。この艦は護衛艦のなかでも「ミニ・イージス」と呼ばれる高性能艦「むらさめ」型の七番艦。基準排水量四五〇t、全長一五一m、全幅一七・四m、喫水五・二m、哨戒ヘリ搭載、乗員一六五名である。護衛艦隊のなかでも、補給支援特措法によるインド洋における補給支援活動に最多の四回の派遣を経験しているという。

この日は五月末だというのに寒く、気温17℃東北東の風だ。航海といっても東京湾内を2時間弱のクルージングであるが、道程三分の一ほどで潮風がとて冷たく感じられ、操舵室に移動し、艦長のすぐ脇で航行の様子を見学することにした。航海長だろつか次々と指示を出す。「取り舵十五度！」すると若い水兵が「取り舵十五度！」と大きな声で復唱する。「取り舵十五度、ヨーロー！」これは命令通り舵を切って正しく進路をとったことの報告のようだ。梅崎艦長（肩章から海自）「佐だと分かった」が、近くの我々見学者に気さくに声をかけて説明役を務め、終始和やかな雰囲気であった。しかし副官以下実に統制のとれたさびきびとした所作が印象的であった。航

海途中には主砲である六二口径七六mm速射砲のデモンストレーションがあった。実射するわけではないが、砲身が想像を超える速さで動き、一分間に一〇〇発もの砲弾を一五km先の目標に向かって極めて正確に速射できるといふ。電子化により進化した艦船の装備に改めて感慨を覚えながら、この日の取材は終わった。これらの武器を実戦で使用する場面が来ないことを祈る思いで帰路に着いた。



「いかづち」海上自衛隊HPより

「取材記 その2 習志野駐屯地に第一空挺団を訪ねて」



第一空挺団絵葉書より

2年E組 飯田 響（広報班）

陸上自衛隊習志野駐屯地は、最精鋭の部隊である第一空挺団や、ゲリラや特殊部隊による攻撃への対処をする陸上自衛隊唯一の特殊作戦群、他にも首都の防空を担う航空自衛隊第一高射隊等、精鋭達が所在する駐屯地です。

習志野という土地は、旧日本軍とも関係が深く、明治六年に西郷隆盛以下の近衛兵により行われた陸軍大演習の際、これを指揮した篠原国幹少将の見事な指揮振りに感銘された明治天皇より「習篠原」（篠原に見

習いなさい」とのお言葉を賜り、それがもとで現在の「習志野」となったのがこの土地の名前の由来であると伝えられています。



空の神兵像前で（右から）

3年A組 笹島俊樹（広報班長）
2年E組 飯田 響（広報班員）
3年F組 渡辺 勇（図書委員長）
図書館長 高橋春樹

駐屯地内には明治健軍以来の様々な碑・建物（この日は歴史館に案内していただきました）があり、広場や周囲の樹木も隊員達の手で良く整備されています。設備も充実し、勤務中の怪我等に備えての各種保険を取り扱う事務所や、退職後の再就職の支援を行う部署の他、コンビニなどの厚生施設が存在します。基地内には主にパラシュート降下訓練をする訓練場、さらに、隣接地に演習場を持ち、日々隊員達が厳しい訓練に励んでいます。

3年A組 笹島俊樹（広報班長）



空挺部隊とは、輸送機やヘリコプター等を用いて敵の部隊の後方に移動し、落下傘で降下して作戦行動を行う部隊のことです。火砲や食料などの軍需物資を輸送することもあります。通常の部隊と異なり戦闘だけ行うのではなく落下傘で目的の場所に降下する技術を持つエキスパート集団です。空挺隊の運用が考えられ始めたのは一九一〇年代のことで、元来、飛行機からの脱出

手段として用いられていた落下傘による降下
パラシュート降下
第一空挺団絵葉書より



下を、部隊の移動手段にできないかと考案されたのが始まりです。

空挺隊員は、その過酷な任務上たいへん厳しい訓練を受けます。私たちが取材した第一空挺団では、体力を強化するトレーニングを数ヶ月間受けた後に降下の訓練に入るのだといいます。まずは、人間が始めて恐怖を感じるという高度十一mからの降下訓練です。この日は「跳下訓練」を見ることができました。

空挺隊員が身につける装備は、背中に落下傘一五kg、胸に予備傘八kg、腰に（降下後は背負う）四〇kg以上の背嚢を付け、尚且つ武器を携行するので、全自重が三〇



訓練内容の説明に耳を傾ける隊員たち
怪我が無いよう誰もが真剣な面持ちです

kgを超え、自分自身では到底立ち上がれないので、隊員二人に両手を引いてもらい立ち上がるのだそうです。
この日の「跳出訓練」では、落下傘降下の途中、高度五〇m地点で腰の装備を放ち、着地の衝撃に備えるという想定で行われていました。つまり、着地時に自重を軽くしておかないと怪我をしてしまうからです。

落下傘降下の速度は最大で毎秒十一m、時速に換算すると約四〇kmですから、この速度で着地することを想像するだけで怖いと思います。跳出訓練塔は、高い檣のうえに輸送機の胴部分を擬した塔を載せたもので、ここから隊員はワイヤーに吊られて、4秒毎に跳び出していきます。そしてある地点



跳出訓練塔から左右4名ずつ、4秒間隔で跳び出していく訓練です

で、先ほどの装備の切り放ちを行う一連の動作を、何度も繰り返し行い、身体に覚え込ませ慣れさせているのです。
この高さの跳び出しを終えると、習志野名物の地上八〇mの鉄塔からの訓練になります。ここでは実際に落下傘を開いての訓練が行われるそうですが、残念ながらこの日は雨天の為、見学をすることは出来ませんでした。

これらの訓練を経て初めて輸送機からの落下傘降下が行われ、飛行速度二一〇km、高度約三四〇mからの降下を実施します。私の家は、この駐屯地に近いので何度かこれを見たことがあります。輸送機からの降下を五回経験すると、空挺基本降下課程の修了となり、胸章が付けられます。

三佐「降下に恐怖心は無いのですか？」

三佐「今でも、何度跳んでいても怖いですが、傘はちゃんと開くだろうか？怪我はしないだろうか？と人間だから思いますが。でも、やりがいを感ずるから跳べるのです」

私たちと同年代のお子さんを持つ三佐も、過去には着地時に脚に全治六ヶ月の骨折を経験されているそうですが、恐怖に打ち勝つ強い信念が窺われ、頼もしく思いました。





習志野名物（パラシュート）降下塔
第一空挺団絵葉書より

3年F組 渡辺 勇（図書委員長）

館長「この基地には、対テロ特殊部隊が配備されているとのことですが…」
三佐「あまり詳しくはコメントできませんが…いるかどうかと訊かれれば、います。」

今回訪問した習志野駐屯地に所在を置く第一空挺団と特殊作戦群は、自衛隊の中で「陸上自衛隊中央即応集団（CRF）」と呼ばれる組織の傘下にあります。その中央即応集団とは、平成一六年一二月に発表された防衛大綱に示された三つの防衛力『新たな脅威や多様な事態への実効的な対応』本

格的な侵略事態への備え』『国際的な安全保障の改善のための主体的・積極的な取り組み』の役割を果たすために平成一九年三月二八日に新編された、防衛大臣直轄の特殊部隊です。第一空挺団をはじめ陸自最大の航空科部隊である木更津・第一ヘリコプター団、中央特殊武器防護隊、そして取材時には軍事機密として明かされなかった特殊作戦群などによって構成されています。

渡辺「実際のところ、私たちの生活にどう関わってくるのですか？」

三佐「例えば、あまり考えたくないことで、皆さんが乗っている地下鉄でテロリストが毒ガスを撒いたとします。そんな時に現場に駆けつけて、除染・救助活動をするのが中央即応集団の中央特殊武器防護隊です。また、皆さんが海外旅行をしている時、災害や緊急事態に遭遇したとします。普通の手段では帰国できない皆さんを迎えに行く。これは在外邦人等の輸送と云いますが、それを行うのが中央即応集団の第一ヘリコプター団のヘリコプターです」

とのこと。ちなみに特殊武器防護隊とは、地下鉄サリン事件の際「一〇一化学防護隊」の名称で出動し、消防では手に負えない現場の救助・除染活動に当たった部隊です。

とは言っても国内が比較的平和である現在、中央即応集団は主に、国際平和協力活動に貢献しています。国際平和活動に必要な教育・訓練を行う国際活動協力隊を中心として、第一空挺団などから様々な地域に隊員が派遣されています。イラクの復興支援をはじめとした国連平和維持活動への協力などです。参加に当たっての基本方針として、参加五原則というものがあります。簡単に言うと『その地域で停戦が成立している』『自衛隊の活動に当事国が合意している』

『自衛隊は中立的な立場を取っている』『上記の事項が満たされなくなったらいつでも撤収できる』『武器の使用は隊員の命を守るための必要最小限のものとする』の五つです。そうした条件の下、現在も中央即応集団は国連平和維持部隊の一員として、ネパールやスーダンなどで、インフラ整備や人道復興支援活動などの任務に就いています。渡辺「国際平和協力活動に参加した経験はありますか？」

三佐「残念ながら、私は行ったことがありません。でも行った隊員達はそのことをとても誇りに思っていますよ」

私たちが平和を、まるで空気を吸うかのように当然の事として享受しながら学校生活を送っている今この時でも、中央即応集団をはじめ全自衛隊員は、有事に備えて訓

今回の取材班に人気の軽装甲機動車重量4,4tながら時速100kmでの走行が可能「イラク人道支援」で活躍の車両



練を積み、出動準備を整えています。三佐「全国どこにでも飛んでいって、落下

傘降下してみせますよ。実際、今日も空挺団は訓練で大半が福島に飛んで行っています。冬には北海道の雪原になった農場に降りたりもします。そしてこの習志野駐屯地では、有事

に備えて一定数の部隊が交替で常以待機しています。国内のどこでも、北海道から九州まで、何かがあれば直ぐに出動して航空機であつと言つ間に駆けつけ、展開・活動ができるようになっています」

取材に対応してくださった三佐の言葉からは、積み重ねられた訓練による自信と、国防の任につく『現代の防人』としての誇りが感じられました。



【学校図書館移転のお知らせ】

4号館1階に図書館を移転しました。旧来のサービスはもちろん、本校図書館が目指す、

- 1、明るく便利な図書館
- 2、親しみやすい図書館
- 3、生徒が主役の図書館

を旨に業務を継続し、八月二十三日より開館しています。仮設校舎の生徒の皆さんにも利用し易いよう工夫を凝らし、従来通りの貸出やリクエストに伝えてまいります。ご利用をお待ちしています！



図書館の壁にはこんなポップなロゴが！従来より少し狭いけれど、図書委員会ならびにスタッフの、ひろく心を感じてもらえたら嬉しいなと思っています

📖 図書貸出統計 📖

学校図書館では、貸出利用数が毎年うなぎ登りに増加中です。今年度上四半期（4月～6月）の貸出数が、中・高あわせて約二五〇冊となっています。図書委員会並びにスタッフにとって大きな喜びです。
(統計表は次ページ参照)

平成22年度 上四半期（4～6月）利用統計

中学生利用状況／生徒総数430名

クラス名	冊数	クラス名	冊数	クラス名	冊数
中学1年A組	257	中学2年A組	66	中学3年A組	115
中学1年B組	181	中学2年B組	63	中学3年B組	71
中学1年C組	259	中学2年C組	50	中学3年C組	113
/		中学2年D組	68	/	
132名/小計	697	168名/小計	247	130名/小計	299
中学ベストクラス★中学1年C組259冊				中学合計1,243冊	

高校生利用状況／生徒総数1,016名

クラス名	冊数	クラス名	冊数	クラス名	冊数
高校1年A組	119	高校2年A組	10	高校3年A組	3
高校1年B組	114	高校2年B組	17	高校3年B組	23
高校1年C組	186	高校2年C組	94	高校3年C組	2
高校1年D組	78	高校2年D組	35	高校3年D組	9
高校1年E組	133	高校2年E組	172	高校3年E組	17
高校1年F組	49	高校2年F組	26	高校3年F組	8
高校1年G組	10	高校2年G組	29	高校3年G組	43
高校1年H組	37	高校2年H組	13	高校3年H組	6
/		高校2年I組	0	/	
348名/小計	726	375名/小計	396	293名/小計	111
高校ベストクラス★高校1年C組186冊				高校合計1,233冊	

本校野球部が、二十年ぶりの七度目の甲子園出場を果たし、市内・校内外が大いに沸いた夏休みを終えました。生徒の皆さんは二学期を迎え、葉牡丹祭、体育祭、修学旅行や学年行事が目白押しです。夏休みの疲れを洗い流すため、4号館1階に移転・開設いたしました。図書が、読書の準備ができています。大変な暑さの中、整頓整頓と配架しました。約二千冊の図書が、猛暑の中汗を流しながら、この意気込みで、必ずや利用する生徒の皆さんに届くものと確信しています。

さて、学校図書館では、九月四日より「現代の防人」展を開催いたします。三月は、宮崎県南部で発生した口蹄疫で、第四十三普通科連隊をはじめ第五航空団などが、この防疫に派遣されたことが記憶に新しく、白い防護服の身を包み、畜舎の消毒・掃除、そして殺処分後の埋却作業を行う自衛隊員の姿が連日ニュースで放映されました。また、梅雨の時期には、やはり九州地方、その他で発生した土砂災害に、出動しているのです。実は身近な存在なのに、改めて認識させられています。隊員たちが、限られた身体を鍛え上げ、職種とする技術を習得し、展示の姿は実に頼もしく感じられます。

展示の主たるテーマは、海外平和活動と災害救助活動です。いつ起こるやもしれぬ災害や有事に備え、訓練する隊員たち。私はこう思うのです。「強靱でなければ防人になれない！」

そして優しくなければ防人ではない！」

企画展を計画以来、ご尽力いただいた自衛隊千葉地方協力本部並びに成田地域事務所の皆様、また、取材に際し、装備の展示にご協力下さる陸上自衛隊第一空挺団の皆様から感謝を申し上げる次第です。

高橋 記

編集後記